四谷の
千枚田だより
第59号

かなかなは　こぞよりふつか
はやくなき　つゆのはれまに
われをせかすか　四谷　柳二

民主党県議団　環境・経済研究会県内調査

七月十日、民主党県議団二十一名が四谷の千枚田を訪れ、小山舜二が対応した。（以下概要）

四谷の千枚田は標高八百八十三㍍の鞍掛山の山懐に抱かれ、恵まれた湧き水と天日乾燥で獲れたお米はとても美味しい。

総面積三、六㌶の棚田を二十三戸の農家が維持管理している。一戸当たりの水田面積は十二㌃と非常に少なく、獲れたお米も「棚田の米は美味しいから」と、子供や親戚に配ったりしてしまい、販売米はほとんどない。

ご覧のとおり、一枚が〇、九㌃、四百二十枚の小田んぼが積み重なった状態で農作業はとても辛い。田んぼは大きくても小さくても一枚は一枚で、大きい方が機械に頼れるから楽だ。そんな、こんなを考えると生産性は全く無く（お金にならない）、嫌になってしまう。

過去には…国の米あまり対策、減反政策の執られる昭和四十六年までは千二百九十六枚の田んぼが作られていた。今、此処から見えるあの杉林も、この谷間も全部田んぼであった。

減反の、経緯をお話すると、自らも携わったその時の状況は、集落に割り当てられた面積を達成するためしょっちゅう寄合いが開かれた。「先祖の遺産を俺の代に減らす訳にはいかない」、「作りもしない田んぼを誰が守り（管理）をしてくれるだ」などと、毎回、減反反対。でも、国は強かった。この見渡すかぎりの棚田を三百七十三枚までに減らしてしまった。

私が感心するのは、余儀なくされた減反政策に於いても、これだけの景観を守り通（抵抗）した耕作者を誉めてあげたい。

私は、七百年前には既に田んぼが作られていた歴史のある棚田を「これ以上減らしたくない」と思い立ち、平成三年から写真を撮り貯め、平成六年、愛知国体において全国から訪れる国体参加者に写真展を通し美しい景観、棚田の持つ機能などを発信し、以降、機会ある毎に棚田保全を呼びかけている。

平成九年、行政への受け皿として念願の「鞍掛山麓千枚田保存会」が発足。と同時に保全に向けて数々の事業、活動が活発化した。

①十三・十四年、ふるさと水と土ふれあい事業により作業道が完成。耕運機の出し入れも難儀であった道も軽トラがすいすい。農作業は楽になったし、都市から大勢訪れるようになり、村も明るくなった。行政も本当に善い税金を使って貰ったもんだと私は喜んでいる。

②地域活動として、千枚田売店の会「棚田っ娘」、「田吾作」、お助け隊」が次々と発足。頑張っている。

③支援グループ　他地区から四グループが耕作放棄の解消に力を注いでいてくれる。

④愛知県ふるさと指導員を認定。大きな支援を頂いている。

都市交流

①収穫祭　田吾作主催で十二月に餅つき大会を開催。都市近郊の人達で賑わう。

②三河の山里ツーリズム・みんなの奥三河（公募）田植え、田の草取り、稲刈りなどを通し、田舎料理を囲み、交流が図られている。

③お田植え感謝祭　お助け隊主催「みんなで灯そう千枚田」を開催。早苗の田んぼに千五百本のロウソクが幻想的な雰囲気を醸しだし、大変、感謝されている。

先祖が築いた偉大な財産として受け継いだ棚田を連綿と守り、その棚田を糧に様々な活動「むらづくり」に邁進する連谷地区は小さい集落ながらすこぶる元気がいい。

各種受賞・認定

・日本の棚田百選　農林水産省認定
・農村アメニティ・コンクール　農林水産大臣賞受賞
・エコスポットあいち　愛知県環境部HP
・東海美の里百選　東海農政局認定
・第十一回全国棚田サミット開催
・念仏おどり　むらの伝統文化顕彰
・食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり　愛知県知事賞
・豊かなむらづくり　東海農政局長賞
・ふるさと指導員制度制定　愛知県
・美しい愛知づくり景観600選認定　愛知県認定

千枚田の展望

棚田の百姓の平均年齢は五十九才。全国的にみても今は若いが、それぞれが年を経っていく。

私は、棚田の将来を鑑み、国の文化財「重要文化的景観」の指定を「千枚田だより」を通して提案した。このことに行政も大きく理解いただき、地元の機運をいかに持ち上げるか・・に今は懸かっている。

七百年以上の歴史ある棚田に、今日は、こんなに多くの県会議員の先生方が訪れ、勉強会を開かれた。小さい村ながらに千枚田を糧に地域住民、皆んなが頑張っている。ややもすると、都会中心的な国づくりに重きがみられてきたが、善い酸素（生物多様性、文化）の豊富な山村の住民が細々でなく、活き活きと暮らせる「むらずくり（山村振興）にもお力を頂きたいと願う。

COP10

生物多様性条約第十回締約国会議あいち・名古屋誘致構想におけるコマーシャル冊子(全２０ページ)に「人のくらしと自然が調和した山里のある風景(愛知県)と題して四谷の千枚田(小山舜二撮影)が紹介されました。

二〇一〇年に行われるCOP10開催地が愛知県に決定。六月十四、十五日、その記念行事として名古屋・栄 オアシス21で一般公開。また、二十三日には愛知県環境部の広告、**地球環境フォーラムCOP10**「あいちの豊かで美しい自然を次の世代へ」と題して朝日新聞に掲載されました。

田植え

六月二十二日、新・体験交流ガイド「みんなの奥三河」に応募した都市部の人たちが降りしきる雨の中、田吾作の指導で田植え体験と梅取りを行いました。

田の草取り

■ 六月十五日、豊橋調理製菓専門学校は食育総論校外研修の一環として、千枚田の実習田で自らが植えた水稲の生育調査と田の草とり、加工用梅取りなどが行われました。

稲の生育調査

■ 六月二十五日、連谷小学校児童の田の草取りが行われ、終了後は沢あそび、そして学校田近くの四阿で千枚田給食を美味しくいただきました。

■七月五日、三河の山里活性化事業実行委員会主催の「千枚田で米づくり」(シリーズ)の田の草取りが行われました。

にほんの里百選

朝日新聞創刊百三十周年・森林文化協会創立三十周年記念 **にほんの里百選**の応募では、「景観」生物多様性」「人の営み」の三つの条件を満たすような里とあり、四谷の千枚田はすべてを満たしていることから推薦しました。(舜)

環境整備活動(モリコロ基金活用)

七月十三日、連谷お助け隊主催の環境整備 根道(真菰～方瀬)の雑木の抜木、杉等の枝打ち作業。方瀬から稲目までの市道上の枝打ち作業を行いました。

当日は、保存会、集落の方々も連谷地区の地域振興および活性化のために大勢出役しました。

情報

六月日、農林漁業現地事例情報「農山漁村地域活性化に向けた優良取り組み事例」について東海農政局 豊橋・情報センターにより小山舜二から情報収集が行われました。

発　行　平成二十年七月十五日
　　鞍掛山麓千枚田保存会
文　責　小山舜二